



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中!…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX: 0467-47-1164 木曜を除く10時~16時
Web URL: <http://www.yamasaki-yato.sakura.ne.jp> Eメールアドレス: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

HPアドレスが変更になりました。

暖冬で積雪もなく、早々と東谷(ひがしやと)の白梅が春を告げ、南斜面にはタチツボスミレが顔を出しています。そここの田んぼでは、アカガエルの卵塊が

見つけられ、谷戸は日ごとに賑やかになってきています。まもなく新年度がやってきます。年度末には10周年記念を予定しています。今年こそ始めてみようと思う方、たまにわずかでも参加してみたいと思う方、どなたでも大歓迎です。

新会員さん、募集中で〜す!



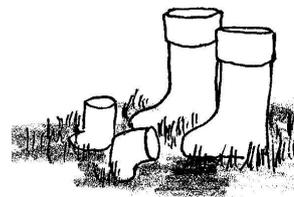
2/15 田んぼ班の粃殻くん炭

もくじ

☆谷戸塾募集→2・3p ☆各班からのお知らせ→4・5p ☆谷戸の自然だより→6p ☆谷戸往来→7p ☆谷戸の体験学習→8・9p ☆3~5月日程表(裏表紙)

第7期

“谷戸塾”受講生募集！



谷戸塾は初めて参加される方を対象とした講座です。今年で7期目を迎え、さらに内容を充実させましたので、ぜひ、継続会員の方も受講ください。

- * 作業の講座は主要な作業を学ぶ3コースです。
- * 座学の講座は散策などを取り入れた7回になります。
- * 毎回、講座には保育が付きます。子連れでの参加も可能です。

申込み：会員登録の後、申込みください。

対象：小学5年生以上

「神奈川県もり・みず市民事業支援補助事業」
「イオン環境財団助成事業」

オリエンテーション
4月12日(日)
10:00-12:00
管理棟2階 研修室にて

年間スケジュール (日程等は変更する場合があります)

月	作業講座 (9:30~12:00)			座学講座 (13:30~15:00)
	田んぼ	畑	雑木林	
4	19(日) 種蒔き	19(日) さといもの植付け	19(日) 斧(おの)で薪割り	
5	3(日・祝) 田うない 24(日) くろつけ 31(日) しろかき	17(日) さつまいもの苗植え	17(日) 鎌を研いで草刈り	24(日) 谷戸とは 谷戸の田・畑
6	7(日) 田植え	14(日) たのくろ豆の種蒔き	21(日)土手の手入れ	21(日) 谷戸の田畑と生きもの
7	5(日) 田の草取り	12(日) さといもの手入れ	19(日) 草刈りして堆肥をつくる	5(日) ☺ 谷戸の植物観察
8	2(日) 畔・土手の草刈り	30(日)大根の種蒔き	16(日) 草刈りして水路整備	
9	13(日) すがい作り 20(日) はさ作り		13(日) 刈払い機で草刈り 27(日) 稲刈り前の草刈り	
10	11(日) 稲刈り	18(日) さつまいもの収穫	4(日) 雑木林の下草刈り	
11	1(日) 脱穀	8(日) たのくろ豆の収穫		
12	6(日) 落ち葉かき 20(日) 苗床耕し	6(日)大根の収穫	6(日) 雑木林の除間伐	6(日)雑木林の管理 20(日) ☺ 正月飾りづくり
1	24(日) 籾殻くん炭		10(日) 雑木林の調査・測定 17(日) 竹の伐採	24(日)昔の谷戸
2		14(日) さつまいも苗床作り	7(日)園内整備	
3	6(日)道具の手入れ	6(日)道具の手入れ	6(日) 山作業道具の手入れ	6(日) 市民活動と里山保全

☆収穫物の一部を、月1回試食します。 ☆座学講座☺マークは屋外講座です。(雨天研修)



募 集

2013年から始めた自然遊び班の「里山探検隊」が、今年も5月よりスタートします。

山崎の谷戸ってどんなところ？ 知っているようで知らない谷戸のこと。小学生のみなさんに、山を歩きながら、農作業の体験をしながら、たくさんの谷戸の魅力をお伝えします。お母さん・お父さんのお手伝いスタッフも募集します。

- ★対 象：小学生
- ★定 員：20名
- ★活動時間：10:00～13:00 ※弁当持参
- ★申込み：通年参加にて受け付けいたします。

4月1日より受付開始

会員申し込みの後、登録して下さい。



【2015年度活動予定】

※内容は変わることもあります。

- 1回：5月10日（日） 「谷戸歩き」
- 2回：6月21日（日） 「谷戸しごと」
- 3回：9月13日（日） 「草木染め」
- 4回：12月13日（日） 「やきいも」
- 5回：2016年1月10日（日） 「紙漉き1」
- 6回：2016年1月31日（日） 「紙漉き2」

詳しい説明は、
4月12日（日）
10:00～12:00
オリエンテーション
で行ないます。
会場：管理棟2階 研修室

（公財）鎌倉市公園協会 協働開催

春の谷戸まつり

4月29日（祝・水）

10時～14時 ・ 荒天中止

★エコに配慮し、お箸、お椀をご持参ください。

★エコに配慮し、お米を希望される方は1キロ入る容器をお持ちください。

炊き出し（谷戸鍋・餅・ご飯他） 体験コーナー（むしろ編み体験など）

谷戸産の頒布（谷戸米、絵はがき、冊子、絵本など） 紙芝居上演 展示 他
引き換え券頒布開始 11時～



各班からのお知らせ



田んぼ班

★3/8(日) 道具の手入れ ★15(日)、22(日)畔・水口直し



1/25 粃殻くん炭

1、2月は稲苗を育成するための準備が、順調に進みました。写真は粃殻くん炭の様子です。写真右側は従来の方法、左側は今年取り入れた、ドラム缶を使った新しい方法です。3、4月は畔・水口の整備、田んぼ内の作業と種粃蒔きなど、苗床での作業になります。

寒さに負けず山から出てくるアカガエルの産卵に合わせて、2月からは田に水を溜め始めました。



畑班

★3/1(日) 洞出し・種芋の伏込み・ねぎの種蒔き ★8(日) 道具の手入れ
★15(日)、29(日)堆肥撒き・草取り・耕し ★22(日) 草取り・耕し

今年の冬、雪は積もらなかったものの冷え込みが厳しく、疎林広場の小麦は霜柱で浮いてしまい、何度も麦踏みをしました。また落ち葉かきに堆肥作り、畑の周りの草刈りや溝切りなど、整備作業にも重点を置きました。そして毎年苦心する「さつまいもの苗床作り」も無事に終え、今週末にはじゃがいもの植付けをします。

3月に入ると春の作付けの準備を始めますが、その前に日頃お世話になっている道具の手入れが欠かせません。春の気配を感じながら、谷戸の仲間と一緒に身体を動かすのは、心が弾み、楽しいものです。



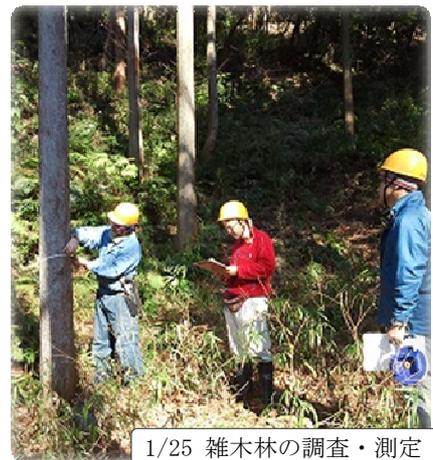
1/11 落ち葉かき・堆肥作り



雑木林管理班

★3/1(日)雑木林の除間伐 ★8(日)山作業用の道具の手入れ
★22(日)間伐材の活用

活動は、枯れ木などの危険木、谷戸の田畑に日陰となる木など、樹木の伐採や下草刈りが中心ですが、その傍ら、特定エリアの全ての木の成長を測定（胸高の周囲を測定）する、毎木調査を毎年行っており、今年も1月に実施しました。その結果、園内の雑木林は、この1年で約3%程度成長していることがわかりました。今後も継続して調査し、適切な伐採量の参考にするなど、維持保全活動に役立てて行きたいと思います。



1/25 雑木林の調査・測定



農芸班

味噌作りも無事に終わり、熟成期間を経て、秋に封を開けるのが待ち遠しいです。



2/27 味噌作り

どの樹木よりも先に春の訪れを告げる梅の花。縮こまっていた体を少しずつ伸ばして、芽吹きを季節を待ち焦がれた喜びを感じます。たくさん実を付けてくれるだろうかと、気になる存在でもあります。新年度は6月から梅干し作りが始まります。多くの方に手作りのよさや楽しさを広めて行きたいと思います。



自然遊び班

里山探検隊で2回（1/11・2/1）に渡って行われた「紙漉き」。谷戸に自生するヒメコウゾを山から採集し、葉書サイズの「和紙」を漉きました。煮て、むいて、水で晒（さら）して、叩いて、さまざまな作業を通して、昔の人々の知恵や工夫、面白さ、大変さなど感じてもらえたことと思います。多くの工程を経てようやく漉けた「和紙」に、愛着もひとしおの様子で、子どもたちは大事に持ち帰りました。



1/11 紙漉き

2/15（日）に行われた、父と子の里山体験「かまどで焚き付け」は、午前中はノコギリを使って、父子でサクラの木を伐採しました。午後からは、雑木林で拾ってきた小枝やスギの葉などをかまどに組み、子どもたちがマッチ摺りに挑戦。うまく焚き付けることができ、勢いよく炎があがりました。かまどでの簡易炭焼きにも挑戦し、黒光りした炭のドングリなどができ上がりました。

父と子の里山体験

（2歳～小学生までの親子対象 定員10組）

★3/15（日）「竹でお椀とお箸作り」

竹をのこぎりで切って、お椀やお箸を作ります。

こども里山一日体験（新年度）

（2歳～小学生までの親子対象 定員10組）

参加費：500円（会員以外の方）

★5/24（日）「竹馬・竹笛で昔あそび」

遊び名人のおじさんと竹馬や竹笛を作ります。



生態系保全班

★3/29（日）オタマジャクシの観察

今年もアカガエルが産卵しましたが、3年前に比べ、激減しています。数年前から、産卵にくる親がアライグマなどの外来種に食べられています。せっかくオタマジャクシになっても、アオサギやカルガモなど、昔はこの谷戸にいなかった生きものたちに食べられるようになってしまいました。「生きものもエサを捕るために必死かもしれない、かわいそうだなあ」と思わずにはられません。

昨年は保護もむなしく、人間にいつぺんに捕られてしまいました。ホトケドジョウも水路の手入れをした翌日に、捕っている人に出会いました。捕らないようにお願いすると、不愉快な顔をされてしまいました。一度減りだすと、どんどん減る一方で、食い止めることが難しいと感じています。アカガエルが産卵するようになるのは、生まれてから3年かかります。今年は、3年前の卵塊数のオタマジャクシが育っているか、結果が出てくるはずですが、調査をしながら、今年も対策を考えていくつもりです。

2/4 アカガエルの産卵調査



植物育成班

★3/4（水）早春の野草と帰化植物 ★8（日）帰化植物除去作業

今年もアシ原の手入れを頑張っています。炭焼き小屋下の湿地は8年ぐらい前から、クズやカナムグラ、セイタカアワダチソウを駆除してきました。毎年手入れをしていたので気が付きませんでした。最近会員の方に「このアシ原はそんなに悪くないですね」と言われ、改めてアシ原を見ると、手入れがしやすくなっていると思いました。短い時間では結果は出ないことが多いですが、それでも、少しずつ変わってきています。



1/28 野草畑の手入れ

野草が好みそうな土手に、野草畑で時間をかけて大きく育てた野草の株を「元気に育つんだよ」と声を掛けながら移植しました。この野草たちも綺麗な花を咲かせてくれますように願っています。

谷戸の自然だより

～生態系から見た、里山の手入れの基本 湿地その2～

① 湿地の重要性と手入れ

現代の「都市型の里山」で大切なのが湿地です。湿地を利用すれば、カエルなど田んぼと同じような生物を守れ、ハンノキやツリフネソウなど湿地ならではの植物も生育できます。首都圏では湿地が希少になっており、鎌倉市内では3ヶ所残っているだけです。昔ながらの里山の手入れに、湿地は含まれていないので、新たに模索しなければなりません。

② 湿地の3段階

アシが多い場所：田んぼをやめて数年たつとアシが生えてきます。水分が多く、掘ると水が溜まることがあります。長靴でないと入れません。ガマのほか、セリ、ミゾソバやツリフネソウ、ツルマメなどが生えます。カエルやトンボ、ヘイケボタルなど、工夫すれば田んぼと同じ生物が生息可能です。キンヒバリやヒメギスなど湿地の昆虫も見られます。生態系としては、手入れされた田んぼとアシ原が混在している状態が理想でしょう。放任しているとヘドロが溜まってくるので、時々“湿地復元作業”で泥を攪拌するとよいようです。山崎の谷戸の湿地の半分以上がこの状態です。

オギ（ススキによく似ている）が多い場所：アシ原が乾燥するとオギが生えてきます。掘っても水は溜まりません。靴で入れますが汚れます。冬季に野鳥の生息地になるほか、カヤネズミ（日本最少のネズミで県の絶滅危惧種）の生息地になっています。乾燥が進むとオギのほか、カナムグラやササ、セイタカアワダチソウも生えてきます。放任していると湿地ではなくなるので、春～秋にササやカナムグラを除去する、冬に枯れたオギを刈り込んで掃除するなどの手入れが必要になってきます。山崎の谷戸の湿地の4割ぐらいがこの状態と思われます。

ササが多い場所：オギ原を放任しているとササが優勢になってきます。畔の跡地などでは早い段階で、ササが生えてくることがあります。ササで覆われるともはや湿地とは言えません。クロマドホタルという陸生のホタル、エゾツユムシというキリギリスが生息したり、野鳥の営巣地になる場合がありますが、部分的に残す程度で、それ以上広がらないように、刈ってしまった方がよいでしょう。山崎の谷戸では畔の跡地は部分的に見られる程度ですが、隣接する台峯緑地では3割ぐらいがこの状態です。田んぼを放棄した時期が山崎の谷戸より早く、50年以上経っているためでしょう。

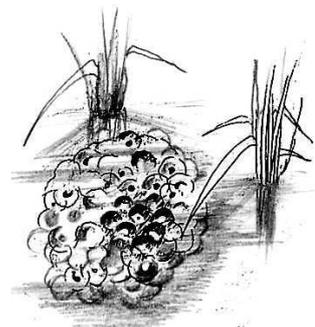
③ 季節別の手入れと経過観察(モニタリング)

今まで生態系保全班で実践してきた作業とモニタリングの方法です。何年も続けているもの、最近始めたものなどさまざまですが、よりよい方法を模索したいと思います。

冬期：畔の下を少し掘って、カエルの産卵する場所を作ります。畔の木に絡んだツル(フジなど)を切ったり、ササを刈ります。オギ原では枯れたオギを刈り、枯草を掃除すると、翌年の湿地のオギの生育がよくなります。この作業が、カヤネズミを増やすためにも役立つようです。モニタリング調査として、野鳥が湿地を利用する場所を確認したり、早春にはモズの営巣場所の確認やカエルの産卵調査をしています。

春～夏：水が溜まっている場所では、湿地復元作業をします。泥を攪拌したり、適度に植物を抜くことで、ヘドロの蓄積を抑え、トンボが産卵しやすくなる効果があります。オギ原ではカナムグラやクズなどの除去作業をします。アシやオギはこの時期は刈らない方がよさそうです。モニタリング調査として湿地内でのヘイケボタルの発生地点を調べます。

秋：オギの開花状況と生育を見て、冬季の作業の成果を確認します。湿地の植物の分布を調査して、湿地保全作業の評価をします。カヤネズミの巣の増減を調査してオギの生育との関連を確認します。





谷戸種蒔

谷戸種蒔 谷戸種蒔

春の七草&どんと焼き 1/14(水)

今年は大恵に恵まれ、水曜日ということもあり、子どもたちの参加も含めて多くの方が集まりました。当会で用意した240食の七草粥と団子も、好評のうちに全てなくなりました。一年の無病息災を願いながら、煙を逃れつつ団子を火にかざす姿がおき火が消えるまで続きました。来年も1月14日に開催しますので、ぜひいらしてください。



ご寄付いただきました

今年度は、以下の方にご寄付いただきました。谷戸の保全活動に有効に使わせていただきます。ありがとうございます。

市川由美子 上江洲慎 遠藤政之 大貫哲 倉本宣 黒谷秀夫 佐藤二郎 館鼻靖美 角田真里 野田真紀子 安田紀代子(敬称略)

自主保育3団体による保全活動

今年も、3つの青空自主保育団体「なかよし会」「にこにこ会」「やんちゃお」が1年間、谷戸の保全活動を担ってくれました。湿地復元、落ち葉かき、もめんばたけでの綿作りなど3団体の力は大きく、成果が上がりました。それぞれしめくりとしてもちつきを行ないました。【感想】にこにこ会★落ち葉をたくさん積んだリヤカーは、子どもたちに手伝ってもらうには重たすぎたけれど、大人に付いて歩くだけで自分でやった気分になっているようだった。あの落ち葉は、いつごろ畑にまける堆肥になるんだろう…と気になるようになった。(清水)／なかよし会★畑の耕していい汗をかき、上着を1枚脱ぎ2枚脱ぎ、その後のおもちはサイコーでした。(百村)★畑で土を返す作業をしていたら、汗びっしょりに。よく動き、よく食べ、谷戸講座では貴重なお話も聞け、充実した1日でした。(芦田)／やんちゃお★働く親たち、勝手に遊び回る子どもたち、餅や谷戸汁ができあがれば、ちょっと手を休めて谷戸の収穫に感謝しつつおいしくいただく。谷戸の緑に見守られながらの親睦会は、とても贅沢でした。(岡野)



絵本「谷戸であそぼう 春」 2/20発行 富山房インターナショナル

当会の会員が、谷戸で遊ぶ幼児の様子を描いた絵本を作りました。画家は、紙芝居「かっちゃんの昔遊び」でおなじみのとみたしょうこさんです。画面いっぱい広がる谷戸の春は、世代を超えて楽しめます。書店でお手に取ってみてください。

